

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

12月報

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ : 報告数は105件(前月比 10.5、前年同月比 0.1)でした。年末からインフルエンザが流行した昨年同月と比較すると少数です。しかし、前月比は増加しており、例年通りに今後増加するものと推測されます。熊本地区37件、御船・八代・菊池地区は各々14件と多いようです。

小児科定点

(全体傾向) 報告総数は5,094件(前月比 1.38、前年同月比 0.73)と増加傾向です。増加の目立つものはRSウイルス感染症とインフルエンザですが、伝染性紅斑と流行性耳下腺炎の例年にない多数報告も続いています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数は554件(前月比 2.7、前年同月比1.7)でした。10月をピークとし11月に一旦減少し再び増加に転じていますので、未だ注意が必要です。菊池地区からの報告が多い一方で、阿蘇地区からの報告はありませんでした。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は158件(前月比 1.6、前年同月比 2.0)でした。プール熱の異名を持つ季節性の高い疾患ですが、今夏の報告数は多くなく、10月以降増加傾向にあります。未就学年齢児の報告が多くを占めています。菊池地区、次いで有明地区からの報告が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は469件(前月比 1.5、前年同月比 1.2)でした。例年同様、年末に向けて増加傾向にあります。年齢は2歳以降の小児から幅広い報告があります。天草・熊本・菊池地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は2,510件(前月比 1.3、前年同月比 0.8)でした。冬季のピークに向けて10月以降増加していますが、12月の報告数は過去3年に比し若干少ないようです。幅広い年齢層で報告があります。県下全域から報告されており、定点当たり100を超えているのは、山鹿・菊池地区です。
5. 水痘 : 報告数は108件(前月比 2.9、前年同月比 0.5)でした。一昨年10月に開始された定期接種の効果から今年は例年に比べて低い件数で推移していましたが、12月は増加に転じました。これから春先にかけて流行する時期であり、注意が必要です。人吉・菊池地区からの報告が多いようです。定期接種対象年齢からの報告も続いているので、早期接種の勧奨対策が必要と思われます。
6. 手足口病 : 報告数59件(前月比 0.7、前年同月比 0.2)でした。7月のピーク以降は毎月減少し、例年並みの推移です。菊池・熊本地区からの報告が目立ちます。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は407件(前月比 1.3、前年同月比 58.1)でした。報告数の増加傾向は12月も続き、今春から始まった流行は治まりません。乳児から小学校低学年まで幅広い年齢層にみられます。菊池地区からの報告が目立ち、次いで熊本・天草・八代地区と続きます。
8. 突発性発疹 : 報告数は137件(前月比 1.1、前年同月比 1.0)でした。例年並みの推移を示しています。
9. 百日咳 : 報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数は31件(前月比 1.0、前年同月比 0.7)でした。7月のピーク以降は毎月減少し、例年並みの推移を示しています。天草・菊池地区からの報告が若干多いようです。

- 1 1. 流行性耳下腺炎 : 報告数は271件(前月比 1.2、前年同月比 4.8)でした。今年は例年に比し高いレベルで推移しています。特に6月以降増加し、11月は横ばい状態でしたが、12月は再度増加しました。山鹿地区からの報告が目立ち、次いで宇城・人吉・有明・菊池地区と続きます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 116 件(前月比 0.8、前年同月比 3.2)と昨年7~12月に見られた勢いはありませんが、前年に比べますとまだ多発しています。
地区別では熊本 90 件、菊池 3 件、八代 2 件、有明 22 件と熊本以外では有明地区の発症が目立ちます。
年齢別では 20~49 歳にピークがありますが、乳幼児層にもまだ多発しており、注意が必要です。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数50件(前月比1.3、前年同月比1.2)で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性22件、女性28件と女性に多く見られています。年齢別は、男性では15~49歳に幅広く、女性は15~34歳に27件と多く見られています。地区別は、熊本が29件と多く、次いで有明6件、御船、八代、宇城に各4件、菊池3件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数17件(前月比0.9、前年同月比0.8)で前月比・前年比とも減少しています。男女別は、男性6件、女性11件と女性に多く見られています。年齢別は、男性は25歳~69歳、女性は20~70歳以上と、どちらも幅広く見られています。地区別は、熊本が8件、八代4件、宇城2件、菊池、御船、有明各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数3件(前月比1.5、前年同月比0.5)で、前月比は増加していましたが、前年比は減少しています。男女別は、男性1件、女性2件でした。年齢別は、男性は20~24歳1件、女性は15~24歳に2件でした。地区別は、熊本2件、八代1件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数16件(前月比1.1、前年同月比0.8)で、前月比では僅かに増加、前年比は減少しています。男女別は、男性9件、女性7件と男性にやや多く見られています。年齢別は、男性は20~34歳に7件、女性は15~24歳に5件と多く見られています。地区別は、熊本9件、菊池、有明各2件、御船、八代、宇城各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 : 報告数22件(前月比 2.0、前年同月比1.1)でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 : 報告数7件(前月比 2.3、前年同月比 1.8)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 : 報告数0件(前月、前年同月と変わらず)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 報告数0件 (前月比 0.0、前年同月比 0.0) でした。
2. 無菌性髄膜炎 : 報告数5件 (前月比 1.0、前年同月比 5.0) でした。前年より多い傾向です。
3. マイコプラズマ肺炎 : 報告数29件 (前月比 1.2、前年同月比 3.2) でした。熊本、有明、人吉が多くなっています。
4. クラミジア肺炎 : 報告数0件 (前月に同じ、前年同月 -1) でした。
5. 感染性胃腸炎 (ロタウイルス) : 報告数20件 (前月比2.5、前年同月比 20.0) でした。増加傾向あり、要注意です。

届け出対象感染症

- | | | |
|-------|-------------------|-------|
| 1類感染症 | : 報告はありませんでした。 | |
| 2類感染症 | : 結核 | : 33件 |
| 3類感染症 | : 腸管出血性大腸菌感染症 | : 2件 |
| 4類感染症 | : A型肝炎 | : 1件 |
| | つつが虫病 | : 1件 |
| | レジオネラ症 | : 4件 |
| 5類感染症 | : カルバペネム耐性腸内細菌感染症 | : 1件 |
| | 侵襲性肺炎球菌感染症 | : 5件 |
| | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | : 1件 |
| | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | : 1件 |
| | 後天性免疫不全症候群 | : 1件 |
| | 梅毒 | : 4件 |